

令和2年度 第2回 政策推進会議報告

日 時 5月20日 9時33分～11時27分

場 所 4-1会議室

出席者 18人

1 令和2年度重点課題事項の公表について

各局長から資料に基づき報告。(以下、質疑等)

【危機管理安全局パート】

- ・(市長) 現在、各地で地震が発生しており、コロナ禍における避難所運営は喫緊の課題である。大きな考え方は今日の記者会見で発表する予定にしているが、具体的には避難部(教育委員会事務局)に小中学校のゾーニング、地域支援部(総合政策局)に自宅待機者等の対応をお願いしている。そういったところの準備を早急に進めていただきたい。

【総合政策局パート】

- ・(市長) 今年度は施策評価も、今回の重点課題事項と同様に、コロナを踏まえた取組ということになっていくと思う。ウィズコロナの取組とともにポストコロナを睨んだ、この経験を次に繋げるということを踏まえた政策調整をお願いしたい。また、総合サポートセンターを中心に、困っている市民の情報を横でしっかりと共有して、自立支援に繋げていけるようにしていきたい。
- ・(市長) 人権・多文化共生の分野では、コロナの影響で外国人もより厳しい状況に置かれると思うし、不当な差別に対する取組に特効薬はないけれど、見える形でキャンペーンを行っていかないといけない。コミュニティ連絡板にはこれまで緊急事態宣言のポスターが貼られていたが、これからはウィズコロナの中で感染者や医療従事者等が不当な扱いを受けることがないようにというような内容にシフトしていく必要があると思う。

【資産統括局パート】

- ・(市長) コロナは尼崎市の財政にも大きな影響を及ぼすと思う。そういった中でも、市民に対する支援策や感染予防策については進める必要があるため、短期的にはコロナのために中止になった事業に係る費用等を集めてコロナ対策に組み替えていく。今後、税収はかなり落ち込み、逆に支援が必要な方は増えると思われるので、そういったことにしっかりと備えるため、中長期的な投資事業を含めて全庁的に事業の見直しをしないといけない。ただ、ピンチをチャンスに変えるという面もあり、今回の経験を生かして更に業務の効率化を進められるような分野もあると思うので、基本的には前を向ってポジティブに進めていきたいと思う。

【総務局パート】

- ・(市長) BCP、業務の継続性をどう確保していくかということについては、ある意味で今回はトレーニングの場のようにもなっていると思うが、全くもって不十分だと感じている。感染者が出たときに本当に止まらずに業務ができるのかという点については、意識が十分に浸透しているとは思えない。感染者が出ないにしても、こういう危機の時には、一部の急速にノウハウや知識を吸収した人に業務が集中して、その人が土日を含めて全く休めないという状況が起こりがちである。最初は仕方ないが、やはりなるべく早い段階からラインの複数化を意

識して交代制を取れるようにするとか、それがいざという時の BCP の確保にも繋がるし、特に対市民の止められない業務のところでは徹底していかないといけないと思う。また、そういうことが普段から休暇を取りやすい職場の環境づくりにも繋がると思うので、これを機に徹底すべきだ。これは総務局だけが頑張っても無理なので、各局の幹部職員がそういうことも意識してマネジメントしていかないといけないと思うし、それをしっかりと横串で後押しするような機能を総務局には期待している。

- ・(市長) ICT に関しても、ピンチをチャンスに変えて、上手に使いこなせるような組織を目指していかないといけないと思う。こうやって WEB 会議を普通にやれるようになったように、ICT 関係はやればできるんだということで引き続き頑張っていきたい。
- ・(市長) 各局で委託業務がたくさんあるが、このコロナ感染症対策で仕様書どおりの業務を行ってもらえないなどいろんなケースがあると思う。また、そこで働くはずだった労働者がどういう扱いになっているかなど、私たちが十分に把握しきれていない課題もあると思う。もっと言えば、委託業者との関係で BCP がしっかりできているかどうかという点も含めて、職場をマネジメントする、リスク管理するという発想を持っていかないといけないと改めて感じた。

【健康福祉局パート】

- ・(市長) これまで実際に尼崎市で福祉避難所が開設されたことがないので、今回のコロナを機に、シミュレーションを具体化していく必要がある。ただ、できることできないことはあると思うので、本当に何が必要かを考えていかないといけない。もしかしたら、普通の避難所のゾーニングをしっかりやっていくほうがリアルなのかもしれないし、その辺は進捗状況をまた教えてほしい。
 - ・(市長) 現在、PCR 外来は落ち着いているので、第 2 波、第 3 波が来た時にまたすぐ増強できるような話し合いを医師会としっかりしておくことが大事だと思う。発熱者を街のお医者さんが見るとするのは難しいのか。
- 今回のコロナは医療従事者への感染率が高いことから、咽頭ぬぐい液を採取することを先生方は全面拒否されている。一方で、最初は発熱の方を受け入れていなかったが、電話対応や IT 対応を国が認めたころからは、電話診療等をしてくれるようになった先生もいる。あとは、休病診は専用の動線を確認できないことから発熱外来を設置できないという状況が続いている。秋以降にインフルエンザが増えてきた場合に、発熱だけで街の病院に拒否されると医療が回らなくなるので、まずは電話診療で投薬してもらい、それでも治らなければコロナを疑うというような意識の共有を図っていかないといけないと考えている。

【こども青少年局パート】

- ・(市長) なかなか人が集まらない状況において、これを機に訪問するなど、今後に繋がるような取組をいち早くやってくれているが、学校が再開したときにすんなりと行けない子も出てくると思うので、引き続きお願いしたい。

【経済環境局パート】

- ・(市長) こども青少年局と共同で行っているお弁当クーポンが家庭に届き始めたと聞いているが、反応について教えてほしい。
- お店のほうからもう弁当を提供しているのかという問い合わせがあり、届き始めたんだなど実感している。PR が少し遅れているところがあるので、他局にもご協力をお願いしたい。

- ・(市長) もし「このお店で使えないのか」というような問い合わせがこども青少年局のほうにあるようであれば、そのお店で使いたい人がいるということなので、経済環境局と情報共有して営業をかけるような連携もお願いしたい。

【都市整備局パート】

- ・(市長) 住生活基本計画については、まちづくりと極めてリンクが深い部局横断的な良い計画となっている。完成してから政策推進会議で報告するのではなく、完成前に調整会議のような場で一度各局に共有してもらってもいいのではないかと思う。今後の尼崎に住みたいなど思わせるような計画案になっているので、ぜひ各局の幹部に共有していただきたい。

【消防局パート】

- ・(市長) ウィズコロナということで、工夫をしながらやらなければならない業務や訓練が多いと思うが、消防団員の方ともども、感染者が出ると市民の安全に大きく影響してしまうので、まず感染予防を組織内でも徹底していただきたい。

【教育委員会事務局パート】

- ・(市長) スタディサプリについては、無料で利用できるサービスが増えてきている中で、あえてこれだけの予算を使って導入しているのは、各学校が生徒のアカウントを把握できるということが大きい。生徒の使い方やその結果を学校が共有できるので、しっかりと子どもたちの学力アップに繋げていけるような取組を行ってほしい。
- ・(市長) コロナ感染予防下における避難所運営になるので、ゾーニングについては災害が起きてからでは遅い。各学校のオストメイト対応トイレ等の設備の状況については先般まとめてもらったが、ゾーニングについても休校中にやりきるくらいのスピード感が必要ではないかと思う。

【公営企業局パート】

- ・(市長) 一般会計の財政が厳しい中で、コロナ対策として上下水道の基本料金・基本使用料の全額減免を行っていただけて助かった。今後の取組に影響がない範囲で、これからも健全経営をお願いしたい。

【議会事務局パート】

- ・(市長) 議員報酬のカットについては、政治家は地元へ寄付ができないため、市長の給与カット等の相当額と合わせて、6月議会に提案するコロナ対策への寄付の受付の受け皿のほうに計上していきたい。尼崎市においては、今後は収支不足に対応した様々な財政対策を取らなければならない可能性が大いにある。今回、行政職員の給与カットは行わないが、寄付の募集が正式に始まったら市内にもしっかりと周知してほしいし、あま咲きチケットという地元企業を応援する取組も予定されているので、そちらで貢献していただいてもいい。皆さんの判断で、尼崎を元気にするためのご協力をお願いしたい。
- ・(市長) 議会の参画も含めた審議会の活性化に、全庁横串でしっかりと取り組んでいきたいので、よろしく願います。

2 令和元年度あまっ子ステップ・アップ調査の結果について

教育次長から資料に基づき報告。

3 その他

- 総務局長から、特別定額給付金に関するスケジュール及び専用ダイヤルの開設について説明。
- 総合政策局長から、A-Lab@HOME コンサートについて説明。
- 総合政策局長から、A-Lab Artist Gate2020 について説明。

以 上